

## Z06 「すざく」: 運用の現状と観測

井上 一 (JAXA/ISAS)、 「すざく」 チーム (JAXA、 岩手大、 埼玉大、 東大、 理研、 立教大、 東工大、 工学院大、 首都大、 青山学院、 東京理科大、 中央大、 日大、 群馬天文台、 名大、 日本福祉大、 金沢大、 京大、 阪大、 神戸大、 愛媛大、 広島大、 宮崎大、 GSFC/NASA、 MIT、 Wisconsin 大)

Astro-E2 衛星は、2005年7月10日、M-V ロケット6号機により成功裏に打ち上げられ、「すざく」と命名された。「すざく」の打ち上げから定常観測までの経過を報告するとともに、今後の観測の進め方について説明する。

「すざく」は2000年に打ち上げに失敗した Astro-E 衛星の再製作機として、日米協力により製作された。「すざく」には、X線 CCD カメラ (XIS) と X線マイクロカロリメータ (XRS) を焦点面に備えた2種類5台のX線望遠鏡と、硬X線検出器 (HXD) が搭載されている。「すざく」は、共通系の立ち上げと近地点上昇マヌーバの後、7月終りから観測機器の立ち上げに入った。立ち上げの途中で、XRSの液体ヘリウムがすべて気化するという不具合が発生し、XRSによる観測が不可能になったものの、XISとHXDの立ち上げは順調に進み、8月中旬にはともにファーストライトを向かえることができた。

「すざく」の観測計画は、打ち上げ前から入念に準備されていたものの、XRSの喪失を受けてすべて見直すことになった。これは、XRSで達成可能なサイエンスと、XIS/HXDが特長を発揮できるサイエンスが異なるためである。現在は、科学ワーキンググループで選定された天体リストに従い、観測を進めている。年内には観測提案の再公募を行ない、来年度から公募提案にしたがった観測ができるよう、準備を進めているところである。

「すざく」計画の立ち上げに際し、天文学会から頂いたサポートに、「すざく」チーム一同、心より感謝します。